

第2回長野市スポーツを軸としたまちづくりのための政策懇話会 意見交換概要

日 時	令和7年9月16日（火） 午後3時30分～午後5時30分
会 場	長野市役所第一庁舎5階 庁議室
出席者	委員7名、進行、関係部局長、事務局
次 第	1 開 会 2 座長挨拶 3 委員紹介 4 説 明 ・第1回懇話会の振り返りと第2回の討議内容 ・一般的なエリアマネジメントの在り方・課題 ・他の自治体におけるエリアマネジメントの事例 ・長野市における現状課題 5 意見交換【非公開】 長野における最適なエリアマネジメントの形とは？ ・長野市での各プロジェクトにおけるプロデュース機能 ・行政・民間が連携した運営の在り方、ヒトモノカネが集まるスキーム、方法論 ・自治体として担うべき役割・関与度合いは 6 閉 会
議 事	【意見交換の内容】 ◇ この北海道サッカーキャンプコネクションのような組織は、収益性をどう考えていくのか、マネタイズの仕方をどう考えていくのが重要。その中で、恵庭市が“ルルマップふれんど”という自然公園にサッカーグラウンド7面を作りキャンプ誘致に向けて動いているが、この管理事業者の公募があり、まちのミライが受託した。キャンプ地の整備と同時に管理業務を請け負い、マネタイズをきちんと行っている。 ◇ 様々な事業に関わる中で、どの事業でも、事業主体やプロデュース機能は非常に重要だと感じている。もちろん地区ごとの特性はあるが、最終的な調整は行政が行いつつも、地元の核となる企業がないと進めるのが難しいと感じている。 ◇ 自治体が先導すると必ず人事異動が来て、後任の方が同じ熱量を持ってやっていただけるとは限らない。推進役の組織を作る際は、その辺のバランスにも注意が必要だと感じている。 ◇ プロデューサーを設立するのであればそこに権限委譲しなければならない。プロデュース機能を立ち上げた以上は、その期間パフォーマンスチェックはするけれど、彼らが何をしようと基本的には行政はサポーターに回り、議会からの監督監視を必要最低限まで抑え込むことがポイントである。 ◇ スポーツ施設を管理していくうえで、顧客データベースを管理して持つところが、今来たお客様を、来年度も2年後もその先も呼んでいくという形のリレーションマーケティングが定石である。 ◇ Jリーグ誘致に関して、J1～3だけでなく、女子サッカーをターゲットにしていくという選択肢は捨て去ってはいけないと考える。今後マーケットが拡大していくし、長野にも強いチームがある

	ので、少なくともここで検討しないという戦略ではないと考える。 ◇ 外部経済をどう大きくしていくかに関して、最近フィンテックの中で、デジタル地域通貨が非常に簡単にコントロールしやすいツールとして生まれてきており、研究してチャレンジしていく余地はあると考える。 ◇ エリアマネジメントは、権限の委譲と、まず確実に入ってくる収益構造を作り出すということをして先におかないといけない。世の中にあるエリアマネジメントの多くがコストセンターとして扱われているが、どう収入を得るのかの仕組みをデザインするという本質的な部分をしっかり追求する必要がある。 ◇ 指定管理制度でも、上手に使えば、エリアマネジメントの収益の取り方と地域への還元をコントロールできる。スポーツ施設の指定管理を通じたエリアマネジメントの議論をしていくと良い。 ◇ 長野市の場合は、この３つのプロジェクトに対して、市の関与が一定程度必要だと思う。市がこのビジョンを立ち上げたうえで、そのビジョンに関わってくる民間と人材をどうデザインしていくのかという議論をしていく必要がある。 ◇ 多数の企業が参画し、行政・民間が一緒になってやっていく体制に持っていくことができれば少しは変わると思う。やはり行政が主導して進めていかないと難しい。長野市の企業はお金に厳しく、お金が中々出てこないで、大きな魅力を伝えていかないとやっていこうという風にならない。また、このプロジェクトをうまくやってくには企業はどのぐらい協力すればいいのかという具体的な金額を示せると、また変わってくると思う。その見せ方をどうやるかというところを本当に考えていかなければならない。 ◇ アメリカのエリアマネジメントと違い、日本のエリアマネジメントは自立財源を持っていない。いくらビジョンを掲げても財源がなければ誰もついてこない。それでも大きな可能性を持っているのがスポーツである。エンターテインメント性が高く、入場料や施設利用料という形で収益があり、地域のチームが盛り上がればそこに人が集まり、お金が動き出す。それが外部経済に広がっていく。収益が立つという点からしてもエリアマネジメントとスポーツは相性がいい。 ◇ その地域地域で置かれている状況をしっかり捉えることが重要である。そういった意味で、ＪリーグやＢリーグのプロスポーツチーム、オリンピック施設などの他の地域にない長野のアセット・特徴をしっかり押さえつつ、どう地域の方々を巻き込めるようなビジョンを描いていくか。地域の企業はどういった社会価値をとともに高めたいのかということをもう少し解像度を上げ、企業が本当に地域のためにやりたいこと、こういうことだったら企業として賛同できるというところをしっかりと明示していくことが重要だと思う。 ◇ 行政サイドでどういったビジョンを書くかが重要だと思う。この合宿誘致は明確に外から呼んでくるということになるが、南長野エリアや東口エリアについては、どういった構成の、誰にどう来てもらおうとしているのかということと、今のその地域性としてどれだけ市外の人たちに来て欲しいか。 ◇ 「する」スポーツ、いわゆるプレーする、スポーツ市民の健康を維持するという点が一番行政として安定的にお金を出しやすい。もしくはコンセッションにして、市民の利用は一切無理して興行に振っていくか。まずは市としてのスポーツのあり方、市民の人たちにどういった場所・機会を提供していくのか、そのビジョンを詰めていく方向で議論することが必要。
--	---

	◇ 合宿誘致について、合宿のメッカになっていくというイメージ付けが必要。その中で、高校生年代やユース年代の誘致を積極的にやっていくほうが行政としてもやりやすいのではないかと。長野には市立長野という強いチームがあるというアピールができるように、強化もしながら、受入れるチームもしっかり作っていくということもあわせて必要。 ◇ 住民に対しては、決まってから説明すると調整が難しい部分もあるので、適宜住民へ説明を行い、共感を得ながら進めるべきである。長野は発信がうまくないので、どのような形で発信していくのは、きちんと検討していくべきである。 ◇ 日本はスポーツを今日やりたいと思ったときにアクセスする場所が少ない。オーストラリアなどの海外では本当に自由にスポーツが行われている。都市の人口戦略、生活サービスの提供戦略の一環として、スポーツへのアクセス性が高いまちというのは、実はまだほとんどこの都市もやっていない。 ◇ スポーツアクセス性の高いまちをつくることで、それをメリットに人を呼び込んでいくなど、スポーツをどうするかではなく、スポーツを使って都市をどうするか、スポーツの経済活性化とはまた別に、スポーツを都市戦略としてどう組み込んでいくのかという論点もありうると考える。 ◇ 地域経済をどう潤わせるかだけではなく、地域の人々がどうスポーツにアクセスできるかということも、失わせてはいけない。長野市にはスポーツ施設が潤沢にあるので、エリアマネジメントの中で、そのスポーツ施設全体のポートフォリオどう組んでいくかということをしっかり考えていくことが重要。そのためにスポーツ施設の現状を調査し、それぞれの方向性を今議論している状況で、エリアマネジメントを考える上ですごく大事なポイントだと考えている。
--	--